

令和3年度 子育てネットワーク部会通信

こころをつなぐ 第2号

第2回の部会で予定していた講演

「本当に大切なこと  
本当に必要なこと」

一般社団法人飛驒シュール 山田ゆかり



飛驒シュールは、最初3人の子どもたちから始まりました。「ライフスキル（生きる力）を育む」という趣旨に賛同した保護者の方々が、我が子を、と集まってくださったのが2007年。以来、子どもを取り巻く社会・環境は目まぐるしく変化しています。このごろ思っているのは、こういう時だからこそ私たちができることは何か再確認すべきではない

か、私たちをもっと知っていただくことも必要ではないかという事です。17年間活動しているにもかかわらず、私たちが日常的にどんなことをしているのかご存じの方はまだまだ少ないようです。この場をお借りして活動の一部を紹介したいと思います。月曜日はスポーツ学童、火曜日はキッズクラブ、水曜日と金曜日はえいごレッスン、木曜日はキッズテニ

ス、土曜日はボディランゲージとキッズテニス、日曜日はガールズバスケットとファミリースポーツワーク。毎日盛りだくさんのメニューです。参加対象は年長から6年生まで、中高生は必要に応じサポーターとして参加しています。だいたい活動は、下校時から活動場所へ直接子どもたちが来て、宿題をしたり自由遊びをしたりします。学校でも家庭でもない、いわばこどもの居場所です。ただし、居場所づくりだけでは終わりません。活動で「叱る」ことはまずありません。声を荒げることやトツプダウンの命令口調はありません。こどもたちに常日頃いう言葉は「思いやりを持つとうね」です。相手の気持ちを考えて話し行動すれば諍いはありません。遊びもスポーツも相手がいなくてはできないことです。お互い思いやりの気持ちでいれば楽しい場になります。「もしおともだちとの間で不快なこと、嫌なことがあったら、そのおともだちと話をしてみよう、まず聞いてみよう」ともいいます。ですから「話をする場」を積極的に持つようにします。また、「考えてみよう」という声掛けをよくします。何をやるにも、「考えること」が前提だ

からです。そして、一番大切にしていくことは「待つこと」です。「シュール」の名の曰くはそこにあります。「子どもが持ち前の潜在的な能力を芽吹かせる（とりかかろうとする）までじっと待つ」というシュタイナー教育の基本を少しでも実現出来た

☆図書館での展示企画☆

大人も子どもも読んでほしい「子ども実用書」

今年度、唯一の形ある活動として実行できたのがこの飛驒市図書館での2月に行った約1ヶ月間の展示でした。

社会教育委員として、子育てネットワーク部会の一員として、人生の少しだけ先輩として子供たちに伝えたいと思うことがたくさんある中で、「これだ!!」と思ったのが、『絵本』を通しての伝え方でした。「子ども実用書」などと固い言い方ですが、今までは生活の中で示してきた事・言ってきた事を今は何かの形で伝えていかなくてはならない時にきているような気がします。



図書館でのコーナーや新聞での紹介を通してPRして頂き、おかげ様で好評だったようで、たくさんの方々に手に取って見ていただいたと司書の方からお聞きしました。これからもいろいろな機会を作り、何かしら提案を投げかけていけたらと考えています。

らという思いが先立ってのことです。私たち飛驒シュールはこれからも、本当に大切なこと、本当に必要なことを見失うことなく、こどもの居場所づくりを続けていきたいと思っています。どうかよろしくお願いたします。

# 子どもたちにとって

## 有意義な遊び場とは



令和2年度より発足した『全天候型遊び場検討委員会』へ、子育てネットワーク部会のメンバーが委員に委嘱されました。第1回（昨年

3月）の会議では、子どもたちにとって有意義な遊び場にはどういった環境や場所があるのか、どういった施設があるのか等について検討を行いました。第2回（昨年4月）には候補となる市内施設を視察に回り、第3回（昨年7月）には施設の設備や遊ぶ環境について検討を行いました。

また、昨年には社会教育委員独自に、お隣の富山市へ一時的に設置されたインクルーシブ遊具を視察に行きました。障がいの有無にかかわらず、誰もが一緒に遊べる環境づくりというまた新たな視点での気付きを得られる研修でした。

当初、検討委員会は令和3年度で終了の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響から会議や視察が行えない等の理由により、令和4年度も引き続き継続されることとなりました。従来から参加している検討委員に加え、次年度の活動への参加を希望する検討委員を含めた新体制での全天候型遊び場検討委員会となる予定であり、よりよい遊び場づくりへ心強い仲間が参加することをとても嬉しく感じていきます。

なお、今年の1月20日、一般社団法人飛騨高山大学設立基金の記者発表により、全天候型子どもの遊び場が古川駅東の新たに建てられる施設に整備されることが発表されました。民間事業とはなりませんが、これまで検討委員会での議論を重ねてきた私たちの意見も反映されよりよい遊び場になることを願っています。

### 編集後記

本年度、開催を予定していましたが「子育てネットワーク部会」は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、やむなく中止とさせて頂いたままです。講師の皆様には、多忙な中でお引き受けいただいたにもかかわらず、公演中

止となりませんでしたことまことに申し訳ありませんでした。コロナ禍となつてはや2年、生活様式が変わりました。ネット会議というものが浸透してきましたが、なかなか慣れません。役所、銀行、店舗等には、アクリル板が設置されて久しく、最初は違和感がありましたが、今では見

慣れた風景となつてきました。いつまで、こういう生活様式が続くのでしょうか。しかし、いつの日かアクリル板が撤去される日が来ると信じています。まだまだ先が見えませんが、一日でも早くコロナが終息し、心配なく人が集まり、活気あふれる日々に戻ってほしいと願っています。

☆私たちの取り組み紹介☆

### 【飛騨市学園構想】

飛騨市教育委員会 中村裕幸学校教育課長



#### 飛騨市学園構想の最新情報はこちら！

・「飛騨市学園構想」って何？という方は・・・  
飛騨市公式ホームページをご覧ください！



・「何を目的に行っているの？」という方は・・・  
広報ひだの企画『連載の庭』をご覧ください！



・「どういう活動をしているの？」という方は・・・  
飛騨市学園構想Facebookをご覧ください！



飛騨市学園構想は、市内の保育園、小中学校  
高等学校・特別支援学校が、めざす未来の創り手像

「志を語り合い しなやかに挑み続ける飛騨びと」を共有し、学校の授業（課題解決型学習）や行事、地域活動等において、多様な人々との交流を通して、子どもたちの資質能力を高めていくことを目的としています。こうした目的を達成するためには、学校の力だけでは実現できません。そこで、令和2年度よりスタートした「学校運営協議会」と「地域学校協働活動本部」と連携・協働して、子どもたちを育て、地域も育つ取組を進めています。

具体的には「飛騨市学園ビジョン」を受けた「3つのプロジェクト」を進めています。各小中学校における課題解決型の授業・活動づくり。地域・学校・家庭が参画して地域づくり・子育てを学ぶ「まなびみらい会議」の開催。子どもたちが抱く課題解決に向けて地域と学校が協働活動を進める「創り手プロジェクト」の支援。保育園や高校、特別支援学校との連携活動にも取り組みます。こうした様々な活動を「社会総がかり」で進めていきます。